

郷里が生んだ 楽聖の魂に触れる40分

音楽劇『瀧廉太郎物語』
〈公演概要〉
日時…平成28年7月2日(土)
総会 11時30分～12時
音楽劇 12時10分～12時50分
懇親会 13時～15時
会場…ホテルグランドヒル市ヶ谷



音楽劇『瀧廉太郎物語』

【作・演出】 柴田千絵里
【出演】 一平杏子 川越美樹 柴田友樹 中井沙織 長尾俊彦
平井千尋 福島 梓 坂本明佳(歌) 藤原伊央里(ピアノ)
【協力】 桐朋学園芸術短期大学
シュピール×シュピール音楽劇ファクトリー
パフォーマンス集団・たまご
(HP) <http://tamago-land.jimdo.com>

『瀧廉太郎物語』 上演決定!!

竹田高校関東同窓会 創立三十周年記念特別公演



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第51号

発行者・会長 松良修二
編集者・委員長 衛藤 淳
発行所・関東同窓会事務局
〒245-0016
横浜市泉区和泉町 4384-2
電話 045-803-5677

<http://www.geocities.jp/kantohtaketa/>

歴史の風雪に耐えて生き残ってきた文化は、時代が大きく変わっても人々の心に訴える力を持つています。私たち竹田高校関東同窓会は、30年の時代を超えて竹高文化を連綿と、世に世代を継いで伝えてきました。今年2016年、晴れて創立30年の大きな節目を迎えました。

この晴れの総会・懇親会を飾るにふさわしい催しを実現することになりました。桐朋学園芸術短期大学(東京都調布市)の卒業生が結成したパフォーマンス集団が制作した音楽劇『瀧廉太郎物語』を、私たち関東同窓会の30周年のために、特別バージョンとして

作・演出の柴田千絵里さんより本誌読者へ熱いメッセージが届きました!

音楽劇とはオペラとは違って、同集団が音楽と演劇を組み合わせた独自の創作劇です。明治期に国全体が激しく変わっていく中で、23歳という短い生涯を燃やし尽くした天才作曲家・瀧廉太郎の魂の旋律を感動的に表現しました。

制作して上演していただけることになったのです。写真は2014年11月、同校創立50周年事業上演時のものです。同短大卒業生の4人組のパフォーマンス集団・たまごが中心になって結成された『シュピール×シュピール音楽劇ファクトリー』が制作・出演しました。

多くの人の中で生き続けています。時代がどんなに変わっても、子どもから大人までどこで誰かが歌っています。さらにそれは日本を越え、外国でも。大人になると誰もが感じる懐かしいという気持ち、そしてそれを想う時浮かぶ風景、廉太郎さんの音楽は、その風景を見せてくれます。本作品に取りかかるとき、どうしても廉太郎さんの見た風景が見たくて、竹田に伺いました。想像や、写真だけではわからない気候や、町の人達の優しさ、そして音。きつと何度もこの風景を思っ作品を作ったことでしょうか。荒城の月だけではなく、他の曲にも、竹田は登場している気がします。この度は、このような会に参加させていただき、誠にありがとうございます。素敵な会になりますよう、誠心誠意の気持ちを持って、努めさせていただきます!



春の幹事会協議事項報告

創立30周年総会・懇親会に向けて 熱気あふれる幹事会



幹事長
井手 得郎
(昭41年卒)

街はすっかり春の風景。桜の開花情報が寄せられる季節になりました。今年も、また、満開の桜が全国各地でみなさんを楽しませてくれる事でしょう。

東日本大震災から5年。新聞は伝えていました。震災発生直後、オーストラリアから派遣された緊急救助隊員76人と捜索犬2匹が、宮城県南三陸町に入りました。みなその惨状に言葉を失い、寒さに驚きました。5年がたつ今年3月11日、当時の消防隊員が現地を再訪し人々に会いました。東北の一日も早い復興が望まれます。地域住民がもっていた場所へ早く戻れる日がやって来る。そう信じています。

我ら関東同窓会は、故郷とのつながりに感謝しつつ、絆を強めるため活発な活動を展開していきたいものです。



県関係者が多数参加された中、竹田高校関東同窓会からも、たくさんの方が参加して大関を目指す嘉風関に激励のエールを送りました。相撲道に対するさらなる熱い思いと、本場所にかかる揺るぎない決意を述べる姿は、頼もしくもあり参加者もまた勇気をもらいました。

3月19日、市ヶ谷アルカディアにて会長以下役員及び学年幹事が多数出席し、春の「定例幹事会」を開催しました。今年の総会・懇親会の開催要領について協議、総会・懇親会の運営並びに催し物について報告がありました。

以下、役員会及び幹事会での討議概要をご報告します。

1 平成27年度決算報告

27年度の総会収支、維持会費収支の説明がありました。本年3月末までの収支実績が確定後、4月9日の監事の監査を受け、総会で承認を得ることの報告があり、承認されました。

2 修学旅行交流会報告

昨年12月11日、修学旅行で上京してきた生徒の皆さんとの交流会が行われました。松良会長、井手幹事長、羽田野総務、志賀組織、衛藤広報各委員長が参加しました。先輩たちは実社会での経験や目標の持ち方、読書の必要性等熱く語りました。生徒の皆さんからは、どうして東京にきたのか、どんな会社で何をして来たのかなど質問もあり、有意義で楽しい交流会となりました。

3 第30回総会・懇親会開催

総会・懇親会については30周年の記念すべき節目となります。役員・当番幹事の力を合わせて盛会にしたいということが確認されました。今年は、7月2日(土)に東京市ヶ谷のホテルグランドヒルを会場として行います。第30回記念総会・懇親会となるので、一層の努力を傾けたところからです。中でも、音楽劇

大分県職員で竹田高校出身者の会

2/20 『臥牛城会』 盛大に開催

大分県職員には竹田高校出身者が数多くいます。そのメンバーの会が『臥牛城会』として毎年総会を行っています。今年は2月20日に行われました。県職員としては県下の各高校が同じように出身者の会を設けているのですが、毎年総会を行っているのは珍しいそうです。現在の責任者の飯田聡一さん(昭52年卒・大分県福祉保健部参事監)によると、「臥牛城会」は、私が入庁した時からありましたから相当、古い歴史があると思います。確かに毎年集まりを行っています。確かに毎年集まりを行っています。現職だけでなくOBも参加してくださっています」と語っています。

また、今年のこの会には県会議員で竹田高校出身の3名も駆けつけています。写真前列中央の後藤輝美校長の左から順に土居昌弘議員(昭63年卒・竹田市



最前列・右から5人目が会長の飯田聡一氏、その左が後藤輝美校長(ともに昭52年卒)

4 会員の維持・拡充

「瀧廉太郎物語」は大変に楽しみな企画となっています。皆さんも期待してください。

同窓会活動を活発化していくためには、維持会員を増やすこ

とが重要な課題となっています。今後は学年幹事との連携、組織委員会の強化、会報「臥牛」の有効活用など様々な手段を駆使して平成時代の会員拡充に向けてさらなる努力をしていくことを申し合わせました。

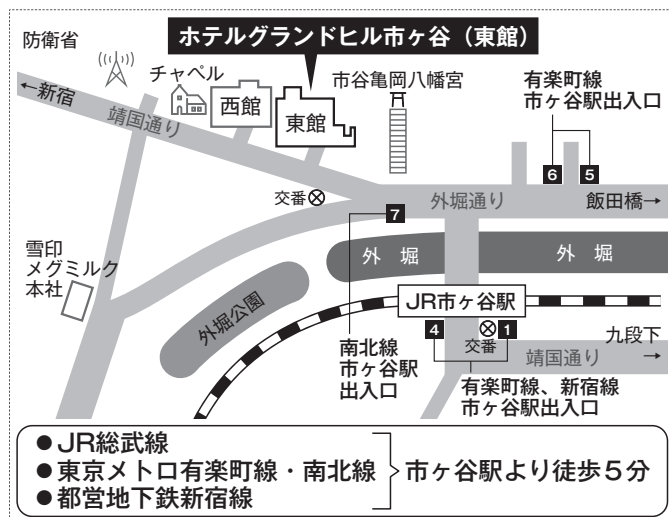
「十年偉大なり、 二十年畏るべし、 三十年歴史成る！」

三十周年記念竹田高校関東同窓会 総会と懇親会のご案内

「当番幹事」 昭和50年卒・昭和60年卒

- 期 日／平成28年7月2日(土)
- 会 場／ホテルグランドヒル市ヶ谷 東館3階 瑠璃の間
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町4-1 ☎03-3268-0111
- 受付開始／11:00～
- 総会開始／11:30～
- 音楽劇『瀧廉太郎物語』／12:10～
- 懇親会／13:00～15:00
- 会 費／8,000円

例年と開始時間が違います。
ご注意ください。



当番幹事
牧野 浩志
(昭和60年卒)

歴史的な瞬間に
立ち会いませんか！

今年の関東同窓会は30周年という節目になります。30年の継続は歴史になるという格言とおり、30年前に、関東同窓会を立ち上げ、そしてリレーでこれまで繋いできた先輩方の努力と歴史に敬意を表する記念大会です。今年の当番幹事は昭和60年卒

と昭和50年卒になります。先輩方の懇切丁寧な支援を得ながら、昨年9月から毎月会議を行ってアイデアを絞ってききました。

メインイベントの選定は一番頭を悩ます難題でした。選定にあたっては、30年の記念になるもの、竹田に関係のあるもの、母校の生徒にも還元できるものにしたという視点から様々な提案がありましたが、2013年の竹田会で上演され非常に好評であった音楽劇『瀧廉太郎物語』に決定しました。この作品は桐朋学園芸術短期大学松井康司教授監修のもとで誕生し、2012年11月に初演された

ものです。出演者は、同短大卒業生の若手芸術家を中心に構成され、瀧廉太郎記念音楽祭の入選者も登場します。DVDで一部内容を見ましたが、本当に感動的なお芝居と音楽です。瀧廉太郎の魂の叫びを肌で感じ、タイムトリップするかのよう故郷に思いを馳せましょう。

また、特別公演だけでなく、竹田市や豊後大野市の空撮映像等の上映も予定しています。懐かしい風景の今を感じながら、和やかな雰囲気での懇親会の演出を予定しています。『銘菓荒城の月』の記念品、郷土の特産品の即売も行います。盛りだくさんの懇親会を楽しみにしておいてください。

しかしながら、課題も山積しています。実は、昨年の同窓会では、私たちの翌年の昭和61年卒の参加者はゼロでした。当番幹事を1年ごとバトンタッチしていくというリレーの仕組みが崩壊の危機にあります。若手が来やすい会にするため、片苦しくない会の演出、先輩後輩の交流など様々な進捗の努力をしていきたいと思っています。お知り合いの同級生、同窓生に声をかけていただけないでしょうか。多くの同窓生で30周年の歴史を祝いましょう！



昨年(平成27年)6月に盛大に行われた総会・懇親会

クラス会・同期会

関東二六会

牛島 健一（昭26年卒）

竹高関東二六会が、昨秋も場所を銀杏色づく北青山「あおしま」で催行しました。当日11月14日は肌寒く小雪がちらつく天候でしたが、老いたりとは言え竹高健児!! 元気に22名が来席されました。開宴は12時、阿南会長のあいさつにはじまり、会長父君の70周忌祭及び胸像建立並びに式典のお礼の言葉をいただき、物故者の冥福を祈り、宴に入りました。会場はほとんど貸切り状態で（お店のご好意）3時間余りを有意義に過ごせました。そして今秋の二六会での再会を約して、渋谷方面、赤坂



方面へとメトロ青山一丁目駅を後にしました。

二六会「カボス会」への誘い

カボス会代表

後藤 光夫（昭26年卒）

竹高関東二六会有志で「カボス会」という会を偶数月の第一金曜日に丸の内三菱UFJ信託銀行本店ビル地下のレストランで催行しております。同一会場で何十年も続いているので、皆歳の勢で逢える楽しみと、散歩方々、運動を兼ねたカボス会を日々待ち望んでおります。また、竹高出身者で来会希望の方は、お申し越しください。



S52年会

学年幹事 内藤 賢一（昭52年卒）



私たちの同期の集まりは喉の渇きを覚えた者の召集を望む声が私に届き、都度召集していきます。頻度は2〜3か月に一度程度でしょうか。とは言え「場末の〇〇横丁の小汚い店に集合」とメールしても集まるのはこれまた小汚いおっさんが多くて4〜5名。これでは「いかん」と薄毛頭を寄せ合い、ない知恵を絞り「日曜日に場所は横浜、本場ビールとドイツ風料理のお洒落な店で、おまけに女性が集まり易いように15時半スタート」で案内をしたところ、いつもの倍を超える11名（女子4名）の参加となりました。久しぶりの女子の参戦に鼻の下が伸びきったおっさんたちと近況報告や、近づいてきた還暦同窓会、同窓会幹事年の催し物等、話に花が咲きました。

平成二十八年度 豊後竹田会

田部 修士（昭42年卒）



2月27日（土）、大阪・梅田のフェニックススタジアム地階にて、多くの来賓をお招きして豊後竹田会が開催されました。式に先立って、棚田の風景や竹楽など竹田市の近況がDVDにて紹介され、11時半より佐藤正関西久住人會会長の司会で賑やかに開幕しました。当日の参加者90名。

来賓…首藤竹田市長、木本茨木市長、朝来市・宮谷様、後藤眞二竹田高校同窓会長、矢野大分県大阪事務所長、洲本関西大分県人会副会長、箱崎兵庫神戸

大分県人会会長、サンフラワー垣内課長、衛藤議員秘書。

来賓として、初めに首藤市長が挨拶され、地元の近況を報告された。▽和太鼓集団タオの活躍▽ウエークボード競技場の完成▽昔30万円ほどの黒毛和牛が最近では80万円で取引されている▽長湯が温泉として全国6位となった（九州では1位）▽県内1周駅伝で竹田市が3位となった等々報告があり、最後にふるさと納税をお願いしますと締めくくられた。

続いて木本茨木市長が登壇され、「茨木でもパクリの竹灯籠が大人気です。竹田市とは24年以來パートナーシップ協定を結び交流を拡大しています」と挨拶された。

衛藤征士郎議員からの祝電披露の後、矢野大分県事務所長のご発声で一同乾杯し、懇親会となった。

懇親会では、名古屋から駆け付けた西みほさんの歌謡ショー、ベリダンダンスショー、恒例の抽選会など盛り沢山の企画で会場は大盛り上がり、竹田の産品も完売して、あつという間に閉会の3時が近づいた。全員で荒城の月を斉唱した後、上原会長より、参加者への御礼と「豊後竹田会は2月の第4金曜日に決まっています。全員元気で来年の再開を期す」と挨拶があり閉会となった。

竹田会第65回懇親会

竹田会事務局 足立 真一

多彩な顔ぶれで

竹田会が盛大に挙行される

とき▼平成27年11月6日(金)
ところ▼東京ガーデンパレス

2階 天空の間

竹田会懇親会が11月6日、東京ガーデンパレス天空の間にて

120名程の出席のもと盛大に行われました。午後6時半、阿南アナウンサーの開会宣言に続き全員が起立し物故者への哀悼の意を表して黙祷し故人を偲びました。



まず辻亨会長よりあいさつがありました。「今日はご多忙の中、竹田会にご参加いただき誠にありがとうございました。また竹田からも大勢お越し下さり心から御礼申し上げます。まずはこの竹田会の司会を長年務めていただいた志生野温夫様に心より御礼申し上げます。ほんとうにありがとうございます。竹田会より厚く御礼を申し上げます。今回より阿南貴恵アナウンサーに受け継がたいへん喜んでおります。」

今回の案内で第65回を迎えます、第1回は1951年、昭和26年に行われました。歴史と伝統がある会であります。これも皆様のご支援とご協力のお蔭であります。心より御礼を申し上げます。また、田能村竹田先生の没後、180年で竹田市に於いて特別展が開かれています。東京でも開かれその迫力を感じ改めて竹田の文化と歴史に感銘を受けた次第であります」

続いて、多数ご出席いただいたご来賓の皆様からあいさつがありました。

- ・首藤勝次竹田市長より地元の近況報告をされました。
- ・水没した文化会館を新たに進化した新文化会館へ平成30年完成の予定。
- ・老朽化した図書館を積み立てられた基金で新図書館へ建替平成29年完成予定。
- ・岡城地は100ヘクタール程もあることから便益施設の建設平成28年度完成予定。
- ・伝統の技を目指し集う若い芸術家たちが増えてきました、農村回帰の推進展開中。
- ・日本初淡水常設ケーブルウェイイクボード施設(長湯ダム湖)残念ながら五輪の最終選考には残れなかったが素晴らしい施設も導入されています。
- ・紅葉に恵まれています大船山へ登山バスの運行が開始されました。

・温泉療養に保険の適用で国が応援することが決定しました。本日の土産で長湯の入浴剤とカボス(森で取れた宝石のネーミング)が全員に配られました。

- ・戦後70年より阿南惟幾大將70年忌祭及び胸像建立など竹田のホットな話題がたくさん紹介されました。
- ・また阿南惟正様よりあいさつを賜り胸像では地元の熱意によって建立に至ったこと、また、70年の年月はたいへん重いものであるなどのお話がありました。竹田高校の3期生であり竹田市の益々の発展とお集まりの皆様方へのご繁栄を祈りましてあいさつとしますと述べられました。
- ・その後IT産業鍋嶋正孝社長を紹介され、急遽風邪のため欠席されました鳥越先生より皆様へ宜しくお伝えくださいとの紹介がありました。
- ・次いで藤野屋商店の甲斐正章社長よりあいさつがありました。「阿南惟幾大將70年忌祭及び建立式典について8月22日に2百数十名ほど集まり盛大に挙行でき、阿南家を始め関係者の方々に心より御礼申し上げます」
- ・また、この竹田会参加のため、竹田より上京されました13名の方々の紹介がありました。甲斐様のほか、内川紀昭様、管



会場には竹田商工会議所による郷土の物産コーナーも設けられ、盛況でした

謹一郎様、高山茂明様、後藤真志様、板井良助様、姫野武俊様、後藤輝美様、平野孝光様、池永徹様、宮成公一郎様、佐伯治様、森田康之様です。

また内川様からも近況報告があり、人口は岡城中心に2万3千人、県内で最後の交差点作りの経緯と竹田の名水の紹介、誘致施設等のご案内がありました。

卓上の準備が整ったところで末吉前北九州市市長より乾杯のご発声で懇親会が始まりました。歓談の中、笹本玲於様より廣瀬武夫研究の特別講演がありました。

しばらくの間、会話を楽しむ人たちで和やかなひとときが続き最後に辻会長、首藤市長始め多くの人が壇上に加わり恒例の「荒城の月」と「美しき竹田の歌」の大合唱で盛り上がり閉会となりました。

ふるさと名所紀行

老舗探訪 その3

伊達屋株式会社

創業255年

日本を代表する発酵食品『糀』に脚光

今回の『老舗探訪』は宝暦12年（1762年）に創業した「伊達屋」さんです。宝暦時代は江戸時代の中期に当たります。寄稿していただいたのは会長の後藤万壽郎氏（竹田高校・昭30年卒）です。

創業者・伊達屋森右衛門は宝暦12年（1762年）に現在の竹田町243番地で醤油・味噌・糀・酢の製造を開始しました。屋号は氏名の伊



伊達屋さんの店舗と後藤万壽郎会長

達屋をそのまま用いました。

二代目より後藤治八郎となり、その次から治八郎を襲名しています。

明治の西南戦争で竹田の町は焼け野原となり、その時、伊達屋も一緒に焼失しました。

その後、町の復興とともに醤油・味噌・糀・酢の製造を再興しています。

明治12年に玉来伊達屋も開設し、醤油・味噌・糀の製造販売を開始。製造には蔵子を数人住み込みで雇っていました。大東亜戦争における蔵子の出兵で蔵の方は人手不足になり物資も少なくなっていました。戦後は米・塩の配給で十分な量の



伊達屋さんの人気商品の「こうじ」（写真上）と「ゆずこしょう」「かぼすこしょう」（写真下）

材料が手に入らなくなり、製造も思うようにはいかなかったりしました。

さらに昭和

30年頃に醤油は窒素の値が決められ、本醸造ではその値に満たない

ので醸造用アミノ酸を添加しなければならなくなりました。このこ

とから各製造所の独特の特徴がなくなり、醤油の乱売が始まり小さい醸造所は経営が厳しくなっていました。やがて政府の通達により定められた醤油組合・味噌組合が醸造をまかされ、小規模業者は製造を中止し組合より取り売をするようになりました。

この時、伊達屋は取り売をせず、米糀・麦麴のみ出荷していくことに決めました。

米糀は甘酒や酒まんじゅうのもとですが、調理に用いると素材の味を引き出させる事で重宝されていました。近年では、糀と塩と水を混ぜることで万能調味料として利用されて

◀1940年代後半頃のもので、右から後藤会長の祖父・亀太郎氏、叔母、祖母のサムさんと妹の尚子さん



1950年頃、亀太郎さんと地区の子どもたちとのラジオ体操後の集合写真

います。糀の発酵力により肉や魚のくさみが消え調理の際柔らかくふつくと仕上がります。

塩、糀、米を三・五・八でしっかりと混ぜると漬物床にもなり、きゅうりやナスなども色よく簡単においしい漬漬ができます。

この米糀をふんだんに使用したゆずこしょう、かぼすこしょうは使用していないものに比べて味に深みが増しています。特にかぼすの淡く上品な香りが和洋中を選ばず料理に合います。

麦麴は味噌の材料です。都会では味噌は買うものと思われていますが、最近は無添加、安全、安心、美味し手作り味噌が見直されており、若い世代の方も挑戦する人が増えています。昭和55年に薬局・化粧品店を併設。平成22年に株式会社となり今日に至っております。

同窓生紹介

世界展開するフランス系料理学校で 重責を担って活躍中

昭59年卒・大石美紀さん(旧姓・内川)



大石美紀さん

Bonjour! ca va? の挨拶から始まる一日。ここは代官山駅から徒歩3分の場所にある一角の建物。瀟洒な建物の中へ一歩足を踏み入れると、そこはパリにあるカフェを再現した場所が続く、ガラス越しにはフランス人のシェフが生徒を前にお湯の沸かし方から講義がはじまります。オードリー・ヘップバーン演じる「麗しのサブリナ」の映画

の舞台となった料理学校の一教室を通り抜けオフィスに入ります。

ル・コルドン・ブルー・ジャパン日本校、ここが私の現在の職場です。

コアントローというリキュールの創設直系一族が100%出資して経営する世界で5校のうちの1校であり、長男であるシャルル・コアントローがアジア代表で東京に駐在しています。

私はファイナンスと管理部門を統括する責任者として経営業務に参画しており、月次～年次～予算等の財務経理全般、プロジェクトベースの財務データ分析、人事労務面や施設管理等にわたり責任を負い、日本の代表たちと密に連絡、報告をしながら本社機能のあるオランダ、アムステルダムへ報告するといった業務を英語で遂行しています。

日本校は東京校と神戸校、合わせて約120名のスタッフを抱えており、スタッフの国籍もフランスが主ですが、

オーストラリア、台湾、中国と多国籍文化の中で毎日いろいろな部署とのコミュニケーションが大切で、さまざまな部署から挙がってくる要望にも適宜対処しながら多忙な毎日を送っております。

竹田高校卒業後、大学では経営学を学び、さらに海外の大学院にて会計学の勉強を修め、帰国後は日本にある外資系企業の会計業務に約15年携わってきました。

職場結婚後、1女をもうけてから食の大切さを痛感し、自己保有をしている水源を活かして小さな水の工場を建て、ミネラルウォーターの製造販売を始めました。OEMでいろんな企業にミネラルウォーターを製作～製造～販売までを行い、身内をはじめ竹田市や大分県の方々、また同窓会の人脈にも大変お世話になり業務を展開してまいりました。10年間を過ぎたところで、この会社経営経験と外資系企業での経験からヘッドハンティングされ現在の職に就任いたしました。

今年2016年は、ル・コルドン・ブルー・ジャパンは日本校の開校25周年を迎えます。2015年のル・コルドン・ブルー・パリ校創立120周年に引き続き喜ばしい節目の年となります。

また、本年はユネスコ無形文化遺産として登録された和食をはじめ、日本の食文化を学ぶさまざまな講義を増設する予定です。第一線で活躍する日本人マスタートシェフを迎え、農林水産省や地方自治体とのコラボレーションにより、和食の調理技術と和菓子の製菓技術、そして日本酒を極める独自の講義も提供します。そして大分県竹田市の素晴らしい食を通して世界へ発信しております。

120 YEARS LE CORDON BLEU 1895 - 2015

Master Excellence
with more than 120 years of tradition and innovation

ル・コルドン・ブルー・ジャパン株式会社
東京都渋谷区猿樂町28-13
03-5489-0144
www.cordonbleu.co.jp

ご案内

今年も愛知県名古屋市で「東海大分県人会」と「奥豊後の会(豊後竹田会から改称)」が同じ日(7月2日(土))に連続して開催されます。竹田高校同窓生も多く参加される会ですので、東海地方にご縁のある方がいらつしゃいましたら、お知らせを上げてください。

【東海大分県人会総会】

日時/平成28年7月2日(土) 11時～
会場/中日パレス

(名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル5階)
TEL: 052-261-8851

会費/男性: 8,000円
女性: 5,000円

発起人/東海大分県人会 会長 山本英次
(竹田高校 昭42年卒)

連絡先/TEL: 070-5440-1032
FAX: 052-763-4006

【奥豊後の会】

「奥豊後の会」は竹田市・豊後大野市出身、及びゆかりのある方の会です。

日時/平成28年7月2日(土) 17時～

会場/榮太郎 栄店(仮)

会費/5,000円(予定)

会長/羽立圭爾(竹田高校 昭40年卒)

連絡先/TEL: 090-7615-0496
FAX: 052-872-2880

竹田高校関西同窓会の発足が決定!!

かねてから準備が進められていた『竹田高校関西同窓会』が正式に発足することになったという知らせが入りました。

【竹田高校関西同窓会・発足式】

開催日/平成28年9月10日(土)

詳細がわかり次第、竹田高校関東同窓会のホームページでご案内いたします。

詩歌文芸

牛に呼ばれて

村尾イミ子（昭32年卒）

一里余りの坂道を歩いて 学校から帰ってくる
牛小屋の二階に登り 藁のなかに寝ころぶ
ほっと息を吸いこんで 藁の匂いに
淡い哀しみがほどこしていく

農閑期になると

兄は近所の若者たちと一緒に夜なべをする

牛小屋の二階で縄をなったり

草履を作ったり筵を編んだり

賑やかな声が外までひびいて

遠くの山に鬼が逃げていく

あの頃の牛が ときにわたしを呼ぶ

手綱でつながっているように

故里に引きもどされる

廃れかけた牛小屋はそのままにあり

藁の匂いと かすかな牛糞の匂いがある

そしてそこにいない牛たちが

哀しそうな目でわたしをみる

ほいのこ（仔牛）は ちらっとこちらを見て

無邪気に跳ねる

藁切り機で藁を切つて糠と水をまぜ牛の餌をつくる

たわしのような固いブラシで牛の背を梳いてやる

そこには牛がいて わたしがいた

東京に戻る日 いない牛たちの蹄の音が

背後から追いかけてくる



詩と随筆が中心の同人誌『真白い花』は創刊して7年、村尾さんも同人として参加しており年に2回発行している。村尾さんは『詩集 カノープス—宮古島にて』『詩集 海に咲く薔薇』なども出版しており、詩人として活躍している。平成16年には第14回伊東静雄賞受賞。

訃報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

工藤 勇司 様（昭34年卒）
平成27年1月29日没

佐藤 源治 様（昭28年卒）
平成27年5月28日没

河野 昭夫 様（昭31年卒）
平成27年12月2日没

※事務局へ連絡を頂いた方々を掲載させて頂きました。

昭和61年卒の皆さんへ
総会・懇親会へのお誘い

組織委員長 志賀 卓史（昭52年卒）

竹田高校関東同窓会では卒業年次ごとに『学年幹事』を設けております。それぞれの学年の同級生たちとの連携を取り、同窓会活動へのお知らせや催しへのお誘いなどを取りまとめている。ただくことなどが役割となります。特に年に1回行われる同窓会総会・懇親会では当番幹事が主体となって盛り上げていくための催し物の企画などに取り組みむことになっています。この当番幹事制がわが竹田高校関東同窓会の最大の特徴と言っても良いものです。

今年、平成28年は昭和50年卒と60年卒が当番幹事として30周

新任役員紹介



事務局長代理 山部 光男（昭53年卒）

〔竹田市立南部小学校、南部中学校出身〕

この度、事務局のお手伝いをさせていただくことになりました。昭和53年卒業の山部光男です。暗中模索の高校生活でした。が、上京後、大学の太分県人会

年の記念の総会・懇親会を担っていただいています。来年、平成29年が昭和51年卒と昭和61年卒が当番幹事となります。昭和51年卒はすでに学年幹事体制も整っております。そこで昭和61年卒の皆さんのご参加をお待ちしています。当番幹事の活動については難しく考える必要は一切ありません。先輩方や昭和51年卒の皆さんが十分にフォローしてくださいます。左記の連絡先にお気軽にご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。

【連絡先①】
副委員長 清水洋一

y.shimizue@water.co.jp

【連絡先②】

広報委員長 衛藤 淳

090-9159-7231

etoj@hotmail.com

編集後記

に入会しその温かさに感動し、同窓会活動の礎となり今日に至っています。今の楽しみは温泉巡りです。先輩方が築き上げた関東同窓会を次世代に引き継ぐため、微力ながら精進してまいります。今後とも宜しくお願い致します。

私の生まれ故郷は旧・清川村です。清川には御嶽神楽があり九州中央部の広範囲に流派を生んで現存しています。清川では、年に一度、その各流派を招いて4月第一日曜日に「出会ひ神楽」と称して丸1日を使って神楽大会が催されています。点在しているものを集めることで復興しているわけです。私が本誌『臥牛』の編集に携わって早2号目、点在する竹田高校同窓生のお力を結集してひとつの会報誌を作り上げる、「出会ひ神楽」ならぬ「出会ひ会報誌」の気分です。皆さんの総力を結集できる会報誌を目指して参ります。

●連絡先●

〒181-0003

東京都三鷹市北野2-3-22

（広報委員長）衛藤 淳 宛

TEL・090-9159-7231

FAX・0422-43-7762